

当院における IVL 治療に関する検討

笠崎 佑弥¹、井口 琴音¹、笛木 彩可¹、福浦 凌¹、細川 直人¹、工藤 誠之¹、三輪 裕騎¹、田村 隆始¹、寒河江 嘉¹、奥田 正穂¹、平田 和也¹、管家 鉄平²、華岡 慶一²

¹華岡青洲記念病院、²華岡青洲記念病院

【はじめに】 2023 年 3 月より石灰化病変に対する治療デバイス Shock Wave 社製 Intra Vascular Lithotripsy (以下 IVL) が使用可能となり、当院でも使用を開始している。IVL を用いた PCI を行う場合、STENT 留置が必須になるなど手技の制限も存在するが、専用の wire への交換が不要であることなど簡便性・安全性に期待され当院でも使用する頻度が増加している。【目的】 当院で IVL を用いた PCI を行う際、IVL バルーンサイズ選択の基準が統一されていないことや、IVL 使用後の cruck 所見の有無から STENT 留置前に追加拡張の必要性を検討しているが、手技が統一されていないのが現状である。そこで今回、IVL を用いて PCI を施行した症例の治療内容・STENT 拡張率に関して検討を行なったため報告する。【方法】 2023 年 3 月から 2025 年 7 月までに行なった PCI で、OCT guide にて IVL を使用した症例を対象とし、OCT で cruck の有無、IVL 後に追加拡張を行った症例と、追加拡張を行わなかった症例でそれぞれ分類し STENT 拡張率に影響があったか検討した。【結果】 対象病変は 53 病変で IVL 後に OCT で cruck を観察することができた病変は 40 病変で、そのうち追加拡張を行った病変は 16 病変であった。cruck を観察することのできなかった病変は 13 病変で、追加拡張を行った病変が 5 病変であった。それぞれの群で STENT 拡張率の平均値に差は認めず、良好な結果であった。【考察】 STENT 拡張率が低かった症例の傾向に関して考察を行なったため、詳細は後日報告する。【結語】 今回の検討では、石灰化に対する IVL での治療の有効性が示唆された。